

附 記 (陸軍省官制改正)

法 制 局 宮 内 參 事 官

(一) 第十一條ニ付

(イ) 第六號中「軍需品行政」ハ「個々ノ軍需品ニ關スル行政」ノ意ト解セラレ近時問題ノ中心ト爲レル物資ノ軍需及民需ノ振分ケ等ニ觸レ居ラザルノ憾アリ。固ヨリ軍事課所掌ノ事項ハ官制第一條ニ所謂「陸軍軍政ヲ管理」スル範圍ヲ出デザルコト勿論ナルモ軍政ニ密接不可離ノ關係アル範圍内ニ於ケル上述ノ物資ノ軍需民需振分ケノ事務ノ如キハ當然軍事課ノ所掌トセラレテ可然モノト考ヘラル。現行官制ノ文面ヲ以テスルモ軍事課所掌事項ニ右事務ヲ含マシメテ解釋スルコト不能ニ非ズト思惟セラルル所今回ノ改正ハ其ノ趣旨ヲ明確ニスル爲ナリ。用語空漠ノ感アルモ現行勅令ヨリモ意義ヲ廣ムルノ趣旨ヲ以テ姑ク原案ニ從フ。

(ロ) 初案第七號中「航空兵ノ本務」ヲ「航空部隊ノ教育訓練」ニ改ムルノ企圖アリ。蓋シ各兵科撤廢セラレタルニ伴ヒ「航空兵科」ナルモノ現在ニ於テハ既ニ無ク第七號ニ所謂「航空兵」ハ右「兵科」ヲ指スモノナルガ故ニ之ヲ「航空部隊」トシ「部隊ノ本務」ナル語句ハ意味ヲ成サザルヲ以テ之ヲ「部隊ノ教育訓練」ニ改ムト謂フニ在リ。然レドモ「航空兵」トハ航空關係ノ職務ニ従事スル各兵ノ意ニ解セラルルコト可能ニシテ現ニ最近兵科撤廢後陸軍ニ於テ昭和十六年軍令陸第一號ヲ以テ航空兵操典ヲ改定シ居ルハ右ノ主張ト矛盾スト

内 閣

謂ハザルベカラズ。加之「本務ニ關スル事項」ハ明カニ「教育訓練ニ關スル事項」トハ異リ、廣ク一般ニ其ノ本然ノ職務ニ關スル事項ノ意ニシテ今之ヲ「教育訓練」ニ改ムルトキハ其ノ以外ノ部分ノ本務ニ關スル事項ノ所管ニ付疑アルヲ以テ今回ハ右改正ヲ取止メ差當リ現行ノ儘トシタリ。第十四條第一號ノ文字亦右ニ同ジ。(佐藤參事官意見)

(ハ) 第十一號中改正ニ付テハ昭和十六年勅令第二〇六號總力戰研究所官制中改正ノ件參照。

(ニ) 第十六條第八號中改正ニ付テハ昭和十六年法律第九十一號參照。

(三) 第十七條中改正ハ陸軍獸醫資材廠ノ設置(昭和十五年勅令第四八一號)ニ伴ヒ獸醫資材行政ノ重要ト爲リタルニ鑑ミ現行第六號ヲ大要第二十二條第三號、第四號及第六號ニ倣ヒ詳細ニ規定スルモノ。又獸醫資材ノ語ガ獸醫材料、蹄鐵ヲ含ムコトニ付テハ陸軍獸醫資材廠令第一條參照。第八號中括弧内築設及管理ハ建築課所掌ノ事務トス。

四 第十八條乃至第二十條ノ二中改正ニ付

(イ) 改正ノ要點ハ

(1) 燃料資源ノ重要化ニ伴ヒ一課ヲ獨立セシメテ燃料關係ノ事務ヲ掌ラシムルコト

(2) 從來ノ戰備課ハ動員關係ノ事務ヲ行ヒ居ル所從來ノ經驗ニ徴シ之ニ燃料以外ノ軍需資源ノ事務ヲモ併セテ掌ラシムルニ非ザレバ能率ヲ擧ゲ得ザルコト明カナルヲ以テ戰備課ヲ右ノ趣旨ニ改ムルコト

(3) 工政課ニ於テハ從來工場ノ設備等技術ニ關スル事務ヲ主トシテ所掌シ來レル所工業

内閣

行政ノ見地ヨリスルトキハ之ニ勞務管理ニ關スル事務ヲモ併セテ掌ラシムルヲ能率上適當トスルヲ以テ右ノ趣旨ヲ以テ規定ヲ整備スルコト

ニ在リ。

(ロ) 第十九條中

(1) 第一號ハ現行ト略々同文、「一般」ヲ「基本」ニ改ム

第二號ハ現行第二號全ク同文。

(2) 第三號ハ物資動員ト別ニ之ト竝ビテ生産力擴充ノ問題ノ近時重要化シタルニ伴ヒ所管ヲ明カニスル爲新ニ挿入シタルモノ。

(3) 第四號ハ現行ト略々同文。

(4) 第五號乃至第六號ハ前項(2)所述ノ趣旨ニ依ル改正ニシテ現行第二十條ノ一第一號乃至第三號ト略々同文、燃料ヲ除外ス。

(5) 現行第三號及第五號ハ前項(3)所述ノ趣旨ニ依リ工政課ニ移ス。

(ハ) 第二十條中

(1) 第一號及第二號ハ現行第一號及第二號ト略々同文。軍需品工業ハ個々ノ製品ヲ押ヘテ其ノ製造工業ヲ意味シ語義明瞭ナルモ稍々狭キニ失シ一般的ニ軍需ニ關スル工業ヲ含マシムル爲之ヲ「軍需工業」ニ改メタリ。

(2) 第三號ハ電力及工作機械ガ軍需工業ノ手段トシテ近時其ノ重要性ヲ喧傳セラレ來リ

内

閣

タルニ鑑ミ陸軍トシテモ之ニ無關心ナルヲ得ザル所ナルヲ以テ所管ヲ明ニスル爲新ニ挿入シタルモノ。原案者側ハ現行條文ニ於テハ第二號ニ含マルト説明ス。電力ト工作機械ヲ茲ニ掲グルハ稍奇異ノ感アルモ其ノ重要性ニ鑑ミテ原案ニ從フ。他部局ノ所掌ニ全然無キヲ以テ「一般」乃至「基本」ノ語ヲ用ヒズ。

(3) 第四號ハ初案「政策ニ關連アル科學技術」トアリテ其ノ趣旨ハ兵器局ニ關係アルヲ以テ其ノ分ヲ除外スル趣旨ヲ以テ右ノ修飾ヲ附シタル旨ノ説明アリタルモ用語妥貼ヲ缺クヲ以テ修正シ括弧書ヲ附加シタリ。一般トシタルハ他ニ一部技術本部ノ所掌ニ屬スルモノアルヲ以テナリ。

(4) 初案第三號ノ次ニ「軍需工業資金ノ需給調整ノ一般ニ關スル事項（監査課所掌ノモノヲ除ク）」ヲ加ヘ同時ニ第二十條^六（監査課ノ部）中「軍需工業資金ノ調達ニ關スル事項（工政課所掌ノモノヲ除ク）」ノ一號ヲ加フルノ企圖アリ。畢竟工政課ニ於テ勞務及資金ノ關係ノ事務ヲモ併セテ管掌スルニ非ザレバ工政課ノ所期ノ目的ヲ達シ難シトスルノ見解ヲ採リ居タルガ工業資金ニ關スル兩課所管ノ區分明確ヲ缺クヲ以テ重ネテ研究ヲ促シタル所原案者ニ於テ撤回スルコトト爲リタリ。

(5) 第五號ハ現行第二十條第三號ニ全ク同文。

(6) 第六號乃至第七號ハ現行第十九條第三號及第五號參照。「人員ノ取得及配分」ヲ「人員ノ需給調整ノ一般」ニ改メタルハ用語ヲ最近ノ用例ニ統一スル爲。又第六號ハ第

内閣

五號ノ行爲ノ結果集合シタル人員ノ集合後ノ勞務管理ヲ意味ス。

(二) 第二十條ノ二ハ新設燃料課ニ關ス。

(1) 第一號ハ本課ガ他ノ各課ト異リ政策ノ施爲ヲモ決定スル總務部的ノ職能アルコトヲ明示スル爲特記シタルモノ、因ニ燃料ニ關スル事務ハ他ニ航空機燃料ニ付陸軍航空本部ニ、自動車燃料ニ付新設ノ機甲本部ニ存ス。

(2) 第二號乃至第六號ハ第十九條(戰備課)第四號乃至第七號及第二十條(工政課)第二號ニ倣ヒ燃料行政ニ付主タル事項ヲ列記ス。内第四號ヲ「基本」ト規定シタルハ機械課及航空本部ニ一部分ノ實施事項アルニ因ル。

(3) 第七號及第八號ハ一部分重複ノ譏ヲ免レ難シ。此ノ兩號ハ初案ハ順序顛倒シ居リタルガ陸軍部内ノ調達ノ調整ハ需給調整ノ一部分ナルヲ以テ法制局ニ於テハ寧ロ前者ヲ削ランコトヲ逡巡シタルニ陸軍側ノ説明トシテハ現在燃料工業ニシテ、補助ヲ受ケ居ルモノ多々存シ燃料國策ノ見地ヨリ或ル場合ニ於テハ特ニ高價ナル燃料油ヲモ忍ンデ購入セザル可ラザル場合アリ。然ルニ部内ノ實情ハ地上勤務關係部局ニ於テモ將又航空勤務關係部局ニ於テモ共ニ成ル丈ケ廉價ナル燃料油ヲ購入スルニ急ニシテ動モスレバ思フ上級ノ點ニ及ボサザルノ憾アリ。陸軍首腦部ニ於テハ新設ノ燃料課ヲシテ各部局ノ燃料ノ調達振ヲ統制セシメ度キ意向アリ。他面「統制」ノ文字ハ其ノ善強大ニ過ギ部内ノ反對アルヲ以テ辛ウジテ「調達ノ調整」ノ文字ヲ以テ妥協シタル次第ナルガ

故ニ此ノ字句ノ削除ハ首肯スルコト能ハズト云フ。仍テ法制局ハ兩號ノ順序ヲ顛倒シ第八號ハ「前號ニ掲グルモノノ外」ノ意ト解スルコトトシタリ。

(ホ) 第二十條ノ三(交通課)ニ於テハ

(1) 海運資材ニ付規定ヲ詳細ニシ

(2) 第八號ニ軍用以外ノ船舶及鐵道車輛ニ付特記スルコトトシタリ。因ニ第五號乃至第七號ニ所謂「海運資材」トハ陸軍ノ用船ノヨリ指シ民間ノ船舶ヲ含マザルモノトスルガ從來ノ見解ニシテ新ニ挿入スル「船舶」ハ右以外ノ船舶ノ義ト説明ス。

(四) 第二十一條乃至第二十三條ノ二ニ付

(イ) 改正ノ要點ハ今回陸軍機甲本部ヲ創設スルニ伴ヒ同本部ニ於テ戰車、牽引車、自動車及自動車燃料ノ整備ノ基本ニ關スル事項ヲ掌ラシメ(別紙機甲本部令附記參照)是ガ實施ニ關スル事項ヲ差當リ陸軍本省ニ於テ掌ラシムルコトトシ機械課ヲシテ之ニ當ラシメ機甲本部所掌ノ兵器以外ノ兵器ニシテ従前ノ機械課ノ所掌ニ屬シ居リタルモノヲ新設ノ器材課ヲシテ掌ラシムル爲ノ改正ニシテ此ノ二方面ノ事務ハ現在錯綜シ居リテ遽ニ分割シ得ベカラザルヲ以テ本案ノ如ク先ヅ二課ニ分別シ漸ヲ追ヒテ諸般ノ準備ヲ進メ事務全ク分別セラレタル曉ニ於テハ(昭和十八年四月ノ豫定)機械課ヲ廢シ其ノ事務ヲ擧ゲテ機甲本部ニ移スノ企圖ナリ。

(ロ) 第二十三條(機械課)

- (1) 第一號中「制式」ノ用語妥貼ヲ缺ク。第二十二條第一號ニモ現ニ略々同様ニ用ヒラレアルヲ以テ原案ヲ認ム。
- (2) 第二號ニ於テ「機械課所掌兵器」ト謂フハ稍々不適當ナリ。是亦第二十二條第三號以下ニ同様ノ用例現存スルヲ以テ之ニ從フ。尤モ初案ハ「審査」ノ下ニ「及之ニ關聯スル調査、研究」トアリテ審査ノ外審査ニ必要ナル調査等ヲ特掲シアリタルガ不要ナルヲ以テ之ヲ削ラシメタリ。
- (3) 第五號ハ初案「地方自動車ノ調査、検査及徴發ニ關スル事項」トアリ。現行第十七條（馬政課）第二號ニ「地方馬ノ調査、検査及徴發ニ關スル事項」トアルニ倣ヒタルガ「地方自動車」ノ語ハ「地方馬」ノ如キ慣熟ノ語義ヲ有シ居ラズ。仍テ第二十條ノ三ニ於ケル「船舶」ノ用語ニ倣ヒ單純ニ「自動車」ト稱スルコトトス。次ニ機甲本部令第一條ニ「自動車ニ關スル調査」トアリテ彼此ノ關係不明ナル旨陸軍ノ申出アリ、茲ニ所謂「調査」ハ「徴發」ノ前提タル「調査」ナルガ故ニ「徴發」ニ含マシムルコトトシテ「調査」ノ字ヲ削リ終案ニ達ス。因ニ純理上ヨリセバ第十五條（兵備課）第六號ニハ「徴發ニ關スル事項」トアルヲ以テ茲ニ「自動車ノ徴發」ヲ特掲ストセバ第十五條第六號ニハ「（他課所掌ノモノヲ除ク）」ト加ヘザルベカラズト考フルモ既ニ現在上記第十七條第二號アリテ而モ此ノ規定ナキヲ以テ今回ノ措置トシテハ現行ノ儘トシタリ。又「検査」ノ上ニ「軍用自動車検査法ニ依ル」ノ文字ヲ加フル中間案アリタ

内

閣

ルモ狭キニ失スルヲ慎レテ之ヲ採ラザリキ。

(ハ) 第二十三條ノ二（器材課）

(1) 第一號ハ現行第二十三條（機械課）第一號ト略々同文。「化學戰資材」ハ毒瓦斯兵器ヲ秘匿シタル用語ナリ。他課所掌ノモノトハ例ヘバ防毒衣、防毒「マスク」ニ付衣糧課、瓦斯自體ニ付銃砲課ノ所掌ニ在ルガ如シ。

(2) 第二號乃至第四號ハ現行第二十三條第二號以下ニ同ジ。第五號ハ現行第二十二條（銃砲課）第九號ヲ移シタルモノ。

(六) 第二十四條乃至第二十八條中ノ改正ハ陸軍需品廠ノ創設（昭和十六年勅令第八四號）ニ伴ヒ規定ヲ詳細明瞭ナラシメタリ。

(イ) 初案第二十六條（管理局監査課）ニ「軍需工業資金ノ調達ニ關スル事項」ノ一號ヲ加フルノ企圖アリシモ爾後之ヲ撤回シタル経緯ニ付テハ上述四(ハ)(4)参照。

(ロ) 第二十八條（建築課）

(1) 第六號ニ於テハ陸軍需品廠令第一條ニ步調ヲ合セテ需品ノ定義ヲ舉グ。茲ニ陣中用品トハ「軍隊需品、應中備品、諸調度、公用行李、天幕及雨覆ヲ謂フ、原案ハ二重ノ括弧ヲ施シ「陣中用品」ノ下ニ右ノ定義ヲ挿入シ來リタルモ規定煩ニ過グルヲ以テ之ヲ削ル。第六號及第七號ノ括弧内他課所掌ノモノハ例ヘバ第二十七條第七號所掲ノ「酒保ニ關スル事項」。

(2) 第八號中括弧ヲ以テ築設ヲ除カザルハ築設モ亦建築課ニ於テ之ヲ行フガ故ナリ。
第二十九條以下ノ改正ハ主トシテ陸軍衛生材料廠ノ創設（昭和四年勅令第二六四號）當時

〔兵業衛生〕ノ

ノ規定ノ整備ヲ行フニ在リ。
第三十條（衛生課）第二號ニ付テハ初案ハ單ニ「兵業」ヲ削ルトアリタリ。其ノ意圖スル所ハ「兵業」ノ字義明瞭ヲ缺クノミナラズ近時陸軍部内ニ於テ漸次問題ト爲レル工場ノ衛生ヲ含マズ、狹義ニ失スト謂フニ在リ。然レドモ「兵業」ノ字ハ元來法制局ニ於テ多大ノ疑義ヲ以テ躊躇シタルニ拘ラズ陸軍ノ要望ニ依リ挿入セラレタル所ニシテ「教練其ノ他兵ノ行フ業務ニ付テノ衛生」ノ意トス。若シ假ニ此ノ二字ヲ削ラバ第二號ハ廣汎ナル規定ト爲ルヲ以テ現行第三號モ亦不要ト爲リ之ヲ削除スベキ筋合ナルヲ以テ原案者ニ此ノ旨語リタルニ原案者ハ第三號ハ個々ノ衛生事項ヲ個別的横斷的ニ見タル見地ヲ示シ第二號ハ其ノ個々ノ事項ノ集積以外ニ人ノ特殊ナル集團ヲ捉ヘ集團的ノ衛生ヲ考フルモノナルガ故ニ兩號共ニ存置シタシト^軍軍隊官衛學校ノ全般ニ亘リ部隊ヲ對象トスル衛生ト工場ノ勞務者ノ衛生トヲ含マシムル如ク第二號ヲ改メンコトヲ希望シ終案ニ達シタル次第ナリ。

以上

（右記載中初案トアルハ閣議稟請案提出前陸軍ヨリ法制局ニ内示セル謄寫刷案ヲ指ス）

内

閣

(一) 設置ノ主目的

支那事變及今次世界大戰ノ戰果ニ鑑ミ裝甲車部隊及之ヲ根幹トスル所謂機械化部隊ノ緊要性頓ニ増大シタルガ、我國軍ニ於ケル此ノ方面ノ研究ハ未ダ遺憾ノ點尠カラズ、仍テ之ヲ促進センガ爲特殊ノ機構ヲ考フルニ現時軍ノ航空ガ長足ノ進歩ヲ遂グルニ至リタルハ一ニ係ツテ航空本部ノ創設ニ在リ。本案ハ範ヲ同本部ニ採リ教育ト器材行政トヲ掌握スル強力ナル中央統轄機構ヲ作成スルニ在リ。六萬十菊ノ感無キニ非ザルモ趣旨ニ於テ全幅ノ支持ニ値スルモノト確信ス。

□ 本案ニ付注意スベキ點概ネ左ノ如シ。

(イ) 第一條

(1) 機甲部隊ノ意義ハ陸軍部内ニ於テハ慣熟セリト稱スルモ一般ニハ未ダ生硬ニシテ遽ニ斷ズベカラズ、仍テ資料ノ追送ヲ受クルコトトス。

(2) 騎兵部隊ヲ茲ニ掲グルコトモ亦聊カ説明ヲ要スベシ。(初案ハ「(騎兵部隊ヲ含ム以下之ニ同ジ)」ノ表現ヲ用ヒ居リタルガ機甲部隊ノ概念中ニ之ヲ含マシムルハ自然ノ推理ニ副フモノト謂ヒ難キヲ以テ法制局ニ於テ「及騎兵部隊」ト修正セシメタルモノナリ。)抑々騎兵部隊ノ基本的任務ハ駿足ヲ利シテ意表外ノ作戰ニ出デ敵ノ歩兵ヲ主幹トスル第一線ヲ側面ヨリ打破シ敵狀ヲ偵察シ又ハ敵ノ後方ヲ攪亂スルニ在リタリ。

然レドモ近時敵ノ第一線ノ打破ハ武装ニ乏シキ騎兵部隊ノ到底能クスル所ニ非ズ。他面機甲部隊ノ騎乗具タル戰車等ノ速力亦日ヲ追ウチ多大ト爲リ、從テ往昔ノ騎兵ノ任務ハ最近ニ於テハ機甲部隊ニ移行セルモノ多ク兩者ハ用兵作戰上ノ目的ヲ同ジウスルコトト爲リタリ。他面上述ノ見地ヨリ騎兵部隊ナル隊種ヲ全廢シ機甲部隊ニ全然變更スベシトノ論スラアリタルガ此ノ論ハ部内ノ全面的支持ヲ受クルニ至ラズ、仍テ機甲本部ニ於テ騎兵部隊ニ關スル事務ヲモ併セテ行ハシムルコトニ決定シタリト謂フニ在リ。

(3) 「學校ニ關スル事項」トハ教育ニ關スル事項ヨリモ廣ク一般的ニ「學校ノ管轄」ヲ意味ス。

(4) 機甲本部ニ於テハ「整備ノ基本」ヲ掌リ陸軍本省兵器局機械課ニ於テ右基本ニ基ク實施ヲ行フ（第二十三條ノ改正規定參照）。此ノ機構ハ他ニ類例ヲ見ザル所ニシテ且ツ軍政ヲ統轄スル陸軍大臣ガ隷下機關タル機甲本部ノ定ムル基本ノ實施ニ當ルハ筋合トシテモ自然ノ推理ニ反スルモノナルヲ以テ原案者側ニ之ガ理由ヲ質シタルニ理想トシテハ勿論實施ヲモ併セテ機甲本部ニ於テ行フコトヲ企圖シ居レルモ現在兵備局機械課ニ於ケル事務ハ戰車等ノ關係ノモノト其ノ他ノモノ（新器材課所掌）ト錯綜シ居リテ遽ニ之ヲ分別スベカラズ。仍テ差當リ分割可能ナル基本事項ノミヲ機甲本部ニ移シ其ノ實施事務ハ本省ニ於テ過渡的ニ一課ヲ設ケテ他ノ器材關係ノ事務ヨリ分割スルノ

(一)第七條中所轄學校ノ査閲ハ當然可能ナルベキ筋合ナルヲ以テ茲ニ特記セズ
(二)第八條中「所屬ノ學生」トハ「當該部隊ヨリ派遣セラレアル士官學校學生」ノ意ナリ。

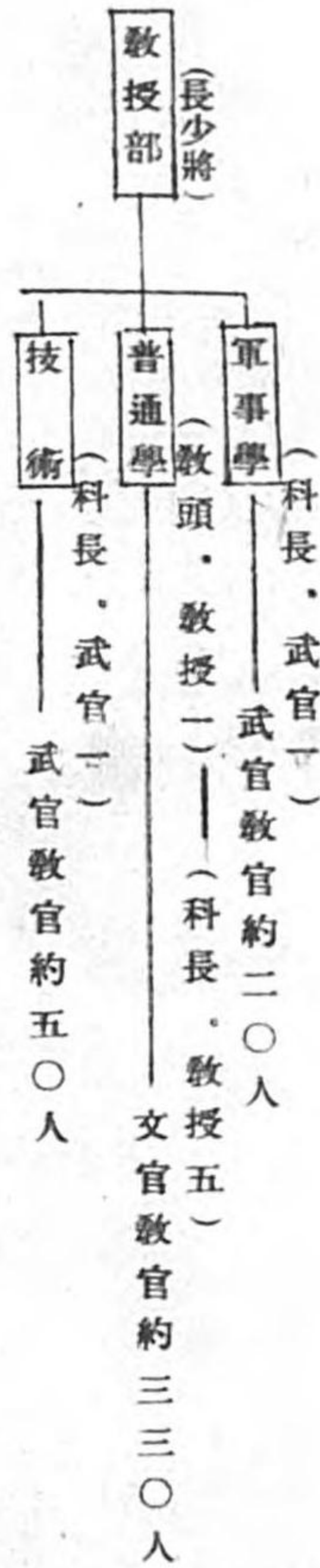
以上

内
閣

陸軍豫科士官學校令中改正附記

法制局 宮内参事官

近時戦争ニ於ケル科學技術ノ重要化ニ伴ヒ從來學科トシテ一括セラレタル教育中技術ニ關スル部分ニ重點ヲ移行シ之ニ則應スル如ク規定ヲ整備セントスル改正ナリ。
 第十六條第二項ニ考フル機構ヲ圖示セバ大要左ノ如シ。



以上

内閣

昭和十六年四月四日

法制局

宮内参事官



内閣官房總務課

木林 理事官殿

肅啓 今日閣議上程ノ陸軍省官制中改正ノ件外二件追加資料及送付候ニ付テハ勅裁後原
議ニ添附置相煩度及御依頼候也

記

一 陸軍省官制中改正ノ件附記

二 機甲本部令附記

三 豫科士官學校令附記

内閣

陸甲 二六

昭和十六年四月四日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十六年四月四日
昭和十六年四月九日
公布

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

逓信大臣

厚生大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

星野國務大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

小倉國務大臣

別紙陸軍大臣

請議

陸軍幼年

年學校令外二件改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

七

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

法
制
局

法制局院第二三號

昭和六年四月二十二日

陸軍

陸普第二二九七號

陸軍幼年學校令外二件改正ノ件

昭和六年四月二日 陸軍大臣 東條英機



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

陸軍幼年學校令外二件別紙勅令案ノ通改正相成度理由書相添へ閣議ヲ請フ

陸甲 二六

陸軍

官印

朕陸軍幼年學校令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年 四月 八 日

内閣總理大臣

陸軍大臣

勅令第四百七號

陸軍幼年學校令中左ノ通改正ス

第九條第一項中「生徒監主事」ヲ削ル

第十五條 削除

第十六條中「生徒監主事」ヲ「訓育部長」ニ改ム

附則

本令ハ昭和十六年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍

理由

陸軍幼年學校訓育ヲシムル爲(改正ノ要)アルニ依ル

朕陸軍監獄官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年 四月 八日

内閣總理大臣

陸軍大臣

勅令第四百八號

陸軍監獄官制中左ノ通改正ス

別表中「小倉陸軍刑務所」ノ次ニ「福岡陸軍拘禁所」ヲ、「旭川

陸軍拘禁所」ノ次ニ「羅南陸軍拘禁所」ヲ加フ

附則

本令ハ昭和十六年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

理由

本時、^①福岡、^②札幌、^③福岡、^④札幌、^⑤羅南各陸軍拘禁所ヲ設置スル爲
改正ノ要アルニ依ル

陸軍

朕大正十一年勅陸軍錄事ノ定員ニ關スル件中改正ノ件ヲ裁可シ茲
ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年 四月 八 日

内閣總理大臣

陸軍大臣

勅令第四百四號

大正十一年勅令第九十四號中左ノ通改正ス

同令左ノ題名ヲ附ス
「專任八十九人」ニ、
「專任七十五人」ヲ
任八十 陸軍法務官及錄事定員令

附則

本令ハ昭和十六年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

軍事極秘

旭川師團	熊本師團	廣島師團	大阪師團	名古屋師團	仙臺師團	第一師團	近衛師團	臺灣軍	關東軍	朝鮮軍	高等	部區分		陸軍
												法務官	錄事	
三	四	四	四	四	四	五	四	三	四	六	五	自昭和十一年至同十六年		陸軍
三	四	四	四	四	四	五	四	三	五	六	三	陸軍軍法會議定員表		
三	四	四	四	四	四	五	四	三	十四年以降臨時編成部隊	六	五	同十四年		陸軍
三	四	四	四	四	四	五	四	三		六	三	錄事		
三	三	四	六	四	三	臨時編成部隊へ移行	六	三	臨時編成部隊へ移行	六	五	同十五年		陸軍
三	三	四	六	四	三		六	三		六	三	法務官		
三	四	四	四	四	三	廢止	四	四	廢止	三	五	同十六年		陸軍
三	四	四	四	四	三		四	四		三	三	錄事		

各年八月一日調

軍令

北部軍	西部軍	中部軍	東部軍	平壤師團	京城師團	羅南師團	京都師團	宇都宮師團	久留米師團	善通寺師團	姫路師團	金澤師團	弘前師團	
				新設時期 八十七年八月	三	四	三	四	四	三	四	四	四	
					三		三	四	四	三	四	四	四	四
					三		三	四	四	三	四	四	四	四
					三		三	四	四	三	四	四	四	四
					三		三	四	四	三	四	四	四	四
					二	二	三	四	四	三	四	三	三	三
					二	二	三	四	四	三	四	三	三	三
四	四	四	七		三	三	三	四	四	四	四	三	三	三
四	四	四	七		三	三	三	四	四	四	四	三	三	三

常設軍法會議處理人員表

昭和十六、三、二七
陸軍省法務局

師團別	年別						
	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年	昭和十六年
近衛師團	二七	二六	二八	三一	三二	六九	四
第一師團	九七	七一	八〇	二二五	二二四	六九	四
仙台師團	二四	三七	一八	二〇	三七	三〇	六〇
名古屋師團	四八	五三	六二	二〇	三〇	三〇	一
大坂師團	三一	四九	三五	八七	一〇四	二〇五	二〇
廣島師團	六四	四二	三四	八二	一三二	三三九	三二
熊本師團	三二	三五	三四	一一一	一二七	一三五	六四
旭川師團	三三	六四	六一	三五	三五三	五九	三
弘前師團	二〇	二七	二〇	四七	六二	五三	一〇
入道師團				二六	四五	四六	四

考備	計	台灣軍	京城師團	羅南師團	朝鮮軍	京都師團	宇都師團	久留米師團	善通寺師團	姫路師團	合渡師團
新設師團候補地(候補)	六五〇	一七	五	一	二	一	一	六	三	六	二
	六四三	三一	一	二	二	二	一	五	一	四	一
	六八六	三三	一	一	四	四	二	四	三	四	二
	六一四	三七	一	三	五	六	二	一	六	五	三
	六六九	二五	一	三	四	一	一	一	七	六	三
	二〇九	三〇	七	三	九	七	一	二	六	八	三
	三二七	一四	七	一	一	二	一	四	一	一	三

法務官錄事各二十名增員ノ件

- 一、東部軍、中部軍、西部軍及北部軍軍法會議並ニ京城、羅南及平壤師團軍法會議ノ職員ノ補充
- 二、檢察官、豫審官及裁判官ノ職務獨立
- 三、處理事件ノ激増及複雜惡質化
- 四、法務部業務ノ強化

附 記 (陸軍監獄令改正)

法 制 局

別表ニ拘禁所名ヲ加ヘタル順序ハ福岡及札幌ハ夫々軍司令部ノ所在地ナルヲ以テ拘禁所所在地
中ノ首位ニ置キ 羅南ハ師團ノ番號數ヲ追フ。

内 閣

B5マイプライター用紙

IMT 600

附記(法務官及録事定員令)

法制局 官内 参事官

法務官及録事ノ定員ハ大正十四年九十九人及九十七人ヨリ夫々七十七人及七十五人ニ減ザラレ爾後改正ナクシテ今日ニ及ビ其ノ間關東軍及第一師團ハ臨時編成部隊ニ移行シ從テ右二個ノ軍法會議ニ配置セラレアリタル法務官九人録事十人ニ付テモ整理ノ洩レタル點アリ。今回別添ノ編成表寫ヲ徴スルニ昭和十六年度ニ於ケル法務官及録事ノ員數ハ夫々八十九人及八十七人ナルヲ以テ勅令上ノ員數ヲ編成ノ員數ニ合致セシムルコトトシタリ。増員ノ實質ハ陸軍ノ兵員ノ激増ニ鑑ミ不當ニ非ザルモノト考ヘラル。

内

閣

陸軍幼年學校令

昭和十五年三月九日
勅令第八十九號

(總理、陸軍
大臣副署)

陸軍幼年學校令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍幼年學校令

第一條 陸軍幼年學校ハ生徒ニ陸軍豫科士官學校生徒タルニ必要ナル素養ヲ與フル爲軍事上ノ必要ヲ顧慮シテ普通學科ヲ教授シ軍人精神ヲ涵養スル所トス

第二條 陸軍幼年學校ハ之ヲ東京、仙臺、名古屋、大阪、廣島及熊本ニ置ク

陸軍幼年學校ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス

第三條 生徒ハ陸軍將校タルコトヲ志願シ召募試験ニ合格シタル者ヲ以テ之ニ才適當毎年一回入校セシメ其ノ修業期間ハ概ネ三年トス

第四條 生徒ノ採用ニ關スル事項及入校期日ニ付テハ陸軍大臣之ヲ定ム

第五條 生徒ノ教育ヲ分チテ調育及學科教育トシ其ノ教育綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第六條 生徒ヲ教育ノ實施ハ教則ニ依ル其ノ教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ教育總監ノ認可ヲ受ケ校長之ヲ定ム

第七條 生徒ノ學科教育及之ニ關聯スル調育ニ任セシムル爲陸軍幼年學校ニ教授部ヲ置ク

第八條 生徒ノ調育ヲ行フ爲陸軍幼年學校ニ調育部ヲ置ク

第九條 陸軍幼年學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

學校附

教官

調育部長

生徒監主事

生徒監

下士官及判任文官

前項ノ職員中將校及下士官ヲ以テ之ニ充ツルモノニ在リテハ豫備役又ハ後備役ノ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十條 校長ハ教育總監ニ蘇シ校務ヲ總理ス

第十一條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十二條 學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十三條 教官ハ校長ノ命ヲ承ケ學科教育及之ニ關聯スル調育ヲ分擔ス校長ハ教官タル陸軍教授ノ内一人ヲ教頭ト爲シ校長ノ命ヲ承ケ教授部ノ業務ヲ監理セシム

第十四條 調育部長ハ調育部ヲ統ヘ校長ノ命ヲ承ケ調育ヲ掌理ス

第十五條 生徒監主事ハ調育部長ノ命ヲ承ケ調育ヲ掌ル

第十六條 生徒監ハ生徒監主事ノ命ヲ承ケ調育ヲ擔任ス

第十七條 下士官及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ教育ヲ補助シ又ハ事務ニ從事ス

第十八條 生徒ハ校内ニ居住セシメ其ノ修學ニ要スル兵器、被服、圖書、器具、消耗品等ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

第十九條 生徒ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第二十條 生徒ハ在校中被服、糧食其ノ他ノ費用トシテ陸軍大臣ノ定ムル

第三編 附則 第一章 官制 第十條 陸軍省及陸軍部

所ニ依リ若干ノ納金ヲ爲スモノトス但シ特別ノ事由アル者ニ對シテハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ特ニ納金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第二十一條 生徒中已ムヲ得ザル事由ニ因リ退校ヲ願出ゾル者アルトキハ其ノ事情ニ依リ之ヲ許可スルコトアルベシ

第二十二條 教育上必要アルトキハ校長ハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得前項ノ懲戒ニ關スル規程ハ教育總監ノ認可ヲ受ケ校長之ヲ定ム

第二十三條 生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ退校セシム

一 屢法則ヲ犯ス者

二 品行不正ニシテ改校ノ目途ナキ者

三 學術ノ成績不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者

四 傷疾疾病ニ因リ修業ニ堪ヘザル者

五 前各號ノ外將來將校ニ適セズト認ムル者

前項各號ノ外納金滞納ノ場合ニハ退校セシムルコトアルベシ

第二十四條 生徒中傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ因リ所定ノ學術ヲ修メ得ザル者ニシテ尙望アルモノハ次期ノ生徒ト爲スコトヲ得

第二十五條 第二十一條又ハ前二條ノ規定ニ該當スル者アルトキハ校長ノ上申ニ依リ教育總監之ヲ處理ス

第二十六條 校長ハ生徒卒業ノ期ニ至リタルトキハ其ノ修業成績書ヲ調製シ之ヲ教育總監ニ提出シ其ノ認可ヲ受ケ卒業者ニ卒業證書ヲ付與シ之ヲ陸軍豫科士官學校ニ入校セシム但シ卒業者中傷疾疾病ニ因リ陸軍豫科士官學校生徒ト爲スヲ得ザル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十七條 校長ハ生徒ニ毎年春季、冬季各二週間以内、夏季四週間以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第二十八條 校長ハ卒業者ニ卒業ノ日ヨリ陸軍豫科士官學校入校ノ日ニ至ル迄休暇ヲ與フルコトヲ得此期間ニ於ケル生徒ノ身分ハ陸軍幼年學校ニ屬ス

第二十九條 校長ハ校務上便宜ノ時期ニ於テ武官タル職員ニ除附勤務ヲ爲サシムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

日本標準規格B4(十一行全)(山田納)

參照

●陸軍監獄官制

明治四十一年九月二十八日
勅令第二百三十七號

陸軍監獄官制ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

陸軍監獄官制ヲ裁可シ之ヲ公布セシム (總理、陸軍大臣副署)

陸軍監獄官制

第一條 陸軍監獄ハ軍法會議所在地(但シ久留米師管ニ在リテハ久留米衛

戍地及小倉衛戍地)ニ之ヲ置キ其ノ名稱ハ別表ニ依ル

第二條 各陸軍監獄ノ種類ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三條 陸軍監獄ニ左ノ職員ヲ置ク

陸軍監獄長

陸軍監獄看守長

陸軍監獄看守

第四條 監獄長ハ奏任トシ監獄看守長ハ判任トシ監獄看守ハ判任官待遇ト

ス

第五條 監獄長ハ陸軍大臣ノ定ムル軍司令官又ハ師團長ニ兼シ部下ノ官吏

ヲ指揮監督シ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第六條 監獄長ハ陸軍懲罰令ノ規定ヲ準用シテ監獄ノ所屬員ヲ懲戒ス

第七條 監獄長事故アルトキハ上席監獄看守長其ノ事務ヲ代理ス

第八條 監獄看守長ハ監獄長ノ命ヲ承ケ庶務及戒護ニ従事シ監獄看守ヲ指

揮監督ス



第九條 監獄看守ハ上官ノ命ヲ承ケ看守、護送、門衛等ノ事務ニ服ス

監獄看守ノ採用ニ關スル規程ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十條 監獄ノ管理ハ長官ハ當該監獄内ノ衛生事務ヲ其ノ最寄部隊附衛
生部將校以下ヲシテ掌管セシムルモノトス

附則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍監獄官官制、明治三十二年勅令第十八號及明治四十年勅令第四十一號
ハ之ヲ廢止ス

(別表)

陸軍監獄ノ名稱	
東京陸軍刑務所	旭川陸軍拘禁所
大阪陸軍刑務所	宇都宮陸軍拘禁所
小倉陸軍刑務所	金澤陸軍拘禁所
京城陸軍拘禁所	京都陸軍拘禁所
臺北陸軍拘禁所	姫路陸軍拘禁所
仙臺陸軍拘禁所	善通寺陸軍拘禁所
名古屋陸軍拘禁所	久留米陸軍拘禁所
廣島陸軍拘禁所	弘前陸軍拘禁所
熊本陸軍拘禁所	

日本標準規格B4列(十一行全)(山田納)

参照

●陸軍法務官及陸軍録事ノ定員ニ
關スル件

大正十一年三月三十一日
勅令第九十四號

改正 大正一四年第一五三號

陸軍法務官及陸軍録事ノ定員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、陸軍
大臣副署)

陸軍法務官ノ平時定員ハ專任七十七人以内、陸軍録事ノ平時定員ハ專任七
十五人以内トス

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸甲二五

昭和十六年四月十一日

内閣書記官長

内閣書記官

十六日
三十一日

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣



陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣



厚生大臣



内務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



小倉國務大臣



大藏大臣



司法大臣



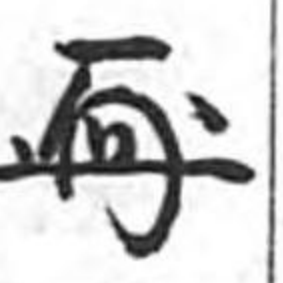
商工大臣



拓務大臣



鈴木國務大臣



別紙陸軍大臣請議陸地測量部

條例改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

昭和六年四月二日
法制局陸第二五號

陸普第二二九六號

陸地測量部條例改正ノ件

昭和六年四月二日 陸軍大臣 東條英

内閣總理大臣 公爵近衛文麿殿



陸地測量部條例別紙勅令案ノ通改正相成度理由書相添へ閣議ヲ請

フ

陸甲 二五

陸

軍

陸務

依

朕陸地測量部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

主任者

陸軍省軍務局軍事課

陸軍少佐 竹下正彦

八日

内閣總理大臣

陸軍大臣

勅令第五百五號

陸地測量部令

第一條 陸地測量部ハ陸地ノ測量竝ニ兵要地圖(及其ノ他ノ地圖ノ

調製及修正ヲ掌リ且測量ニ關スル諸般ノ調査及研究ヲ行フ

前項ノ外陸地測量部ニ於テハ陸地測量ニ從事スル陸軍技師又ハ陸軍技

第二條 陸地測量部ニ總務課及第一課乃至第三課竝ニ教育部ヲ置

ク

各課ノ業務分掌ハ參謀總長之ヲ定ム

教育部ニ於テハ前條第二項、第十一條及第十二條ノ規定ニ依ル

陸地測量部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年 四月二十八日

内閣總理大臣

陸軍大臣

勅令第五百五號

陸地測量部令

第一條 陸地測量部ハ陸地ノ測量並ニ兵要地圖(及其ノ他ノ地圖ノ

調製及修正ヲ掌リ且測量ニ關スル諸般ノ調査及研究ヲ行フ

前項ノ外陸地測量部ニ於テハ陸地測量ニ從事スル陸軍技師又ハ陸軍技

第二條 陸地測量部ニ總務課及第一課乃至第三課並ニ教育部ヲ置

ク

各課ノ業務分掌ハ參謀總長之ヲ定ム

教育部ニ於テハ前條第二項、第十一條及第十二條ノ規定ニ依ル

第三條 陸地測量部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

課長

教育部長

部員

附 教官

下士官及判任文官

第四條 部長ハ參謀總長ニ隷シ部務ヲ總理ス

第五條 課長ハ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス

第六條 教育部長ハ部長ノ命ヲ承ケ教育部ノ業務ヲ掌理ス

第七條 部員及附ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ業務ヲ掌ル

第八條 教官ハ教育部長ノ命ヲ承ケ教育ヲ分擔ス

第九條 下士官及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ技術若ハ事務ニ從事
シ又ハ教育ヲ補助ス

第十條 第一條第二項ニ規定スル者ノ教育綱領ハ參謀總長之ヲ定
ム

修學ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 部長ハ官廳又ハ民間ヨリ測量ノ指導又ハ測量ニ從教育
ノ依頼アルトキハ第一條ノ規定ニ依ル業務ニ妨ナキ限り參謀總
長ノ認可ヲ受ケ之ニ應ズルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

陸地測量部ノ機構ヲ全面的ニ刷新スルノニ依ル

陸軍

陸地測量部

●陸地測量部條例

明治二十四年八月十八日
勅令第百七十五號

陸地測量部條例
公布セシム

陸地測量部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸地測量部條例

第一條 陸地測量部ハ陸地測量ヲ施行シ兵要地圖及一般ノ國用ニ充ツ可キ内國圖ヲ製造修正シ其他量地ニ關スル事ヲ掌ル所トス

第二條 陸地測量部ニ三角科地形科及製圖科ヲ置キ各科ヲ數班ニ分チ又別ニ修技所ヲ置ク

第三條 陸地測量部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 少將或各兵科大佐

事務官 各兵科少佐及尉官

材料主管 各兵科大尉

【軍吏】

科長 各兵科佐官

科僚 各兵科中尉或少尉

班長 各兵科少佐或大尉

班員 各兵科大中少尉或相當陸地測量師及陸地測量手

修技所幹事 各兵科大尉

修技所教官 各兵科大中少尉或相當陸地測量師

修技所助教 陸地測量手

第四條 部長ハ參謀總長ニ隸シ部事ヲ整理シ及陸地測量官養成ノ責ニ任ス

第五條 事務官ハ部長ノ命ヲ受ケ部内ノ庶務ヲ掌ル其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第六條 材料主管ハ部長ノ命ヲ受ケ器具材料及圖籍ノ整理ニ任シ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第七條 【軍吏】ハ部長ノ命ヲ受ケ會計一般ノ規定ニ據リ部内ノ會計物品ノ購買供給ヲ掌リ其下ニ【書記】或ハ陸軍屬ヲ置ク

第八條 三角科ハ量地ノ事ヲ管シ三角測量及水準測量ヲ施行シ諸測量ノ基點ヲ設ケシ地形科ハ地形測量ヲ施行シテ原圖ヲ製造修正シ製圖科ハ諸地圖ヲ製造シテ製版印刷スルヲ掌ル

第九條 修技所ハ陸地測量官ヲ養成スルノ所ニシテ測量手タル學生及生徒ヲ置ク其教授科目ハ陸地測量部長之ヲ定ム

第十條 科長ハ部長ノ指揮監督ヲ受ケ班長以下ニ職務ヲ課シ各科ノ整理ニ任ス

第十一條 科僚ハ科長ノ命ヲ受ケ科内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十二條 班長ハ科長ノ命ヲ受ケ其班員以下ニ職務ヲ課シ各班ノ事業ヲ管理ス

第十三條 班員ハ上官ノ命ヲ受ケ各其業務ヲ分掌ス

第十四條 科長及班長ハ陸地測量官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十五條 修技所幹事ハ部長ノ命ヲ受ケ學生及生徒ノ養成ニ任シ所内ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十六條 修技所教官及助教ハ部長ノ命ヲ受ケ少學術科ノ教授ヲ分掌ス

第十七條 修技所教官ハ定員ノ外他ニ本職アル者ヲ以テ兼勤セシメ若クハ學識アル者ヲ選ヒテ之ニ囑托スルヲ得

<p>修技所</p>	<p>第一分科</p>	<p>第二分科</p>	<p>第三分科</p>	<p>第四分科</p>	<p>第五分科</p>	<p>第六分科</p>	<p>第七分科</p>	<p>第八分科</p>	<p>第九分科</p>	<p>第十分科</p>	<p>第十一分科</p>	<p>第十二分科</p>	<p>第十三分科</p>	<p>第十四分科</p>	<p>第十五分科</p>	<p>第十六分科</p>	<p>第十七分科</p>	<p>第十八分科</p>	<p>第十九分科</p>	<p>第二十分科</p>	<p>第二十一分科</p>	<p>第二十二分科</p>	<p>第二十三分科</p>	<p>第二十四分科</p>	<p>第二十五分科</p>	<p>第二十六分科</p>	<p>第二十七分科</p>	<p>第二十八分科</p>	<p>第二十九分科</p>	<p>第三十分科</p>	<p>第三十一分科</p>	<p>第三十二分科</p>	<p>第三十三分科</p>	<p>第三十四分科</p>	<p>第三十五分科</p>	<p>第三十六分科</p>	<p>第三十七分科</p>	<p>第三十八分科</p>	<p>第三十九分科</p>	<p>第四十分科</p>	<p>第四十一分科</p>	<p>第四十二分科</p>	<p>第四十三分科</p>	<p>第四十四分科</p>	<p>第四十五分科</p>	<p>第四十六分科</p>	<p>第四十七分科</p>	<p>第四十八分科</p>	<p>第四十九分科</p>	<p>第五十分科</p>	<p>第五十一分科</p>	<p>第五十二分科</p>	<p>第五十三分科</p>	<p>第五十四分科</p>	<p>第五十五分科</p>	<p>第五十六分科</p>	<p>第五十七分科</p>	<p>第五十八分科</p>	<p>第五十九分科</p>	<p>第六十分科</p>	<p>第六十一分科</p>	<p>第六十二分科</p>	<p>第六十三分科</p>	<p>第六十四分科</p>	<p>第六十五分科</p>	<p>第六十六分科</p>	<p>第六十七分科</p>	<p>第六十八分科</p>	<p>第六十九分科</p>	<p>第七十分科</p>	<p>第七十一分科</p>	<p>第七十二分科</p>	<p>第七十三分科</p>	<p>第七十四分科</p>	<p>第七十五分科</p>	<p>第七十六分科</p>	<p>第七十七分科</p>	<p>第七十八分科</p>	<p>第七十九分科</p>	<p>第八十分科</p>	<p>第八十一分科</p>	<p>第八十二分科</p>	<p>第八十三分科</p>	<p>第八十四分科</p>	<p>第八十五分科</p>	<p>第八十六分科</p>	<p>第八十七分科</p>	<p>第八十八分科</p>	<p>第八十九分科</p>	<p>第九十分科</p>	<p>第九十一分科</p>	<p>第九十二分科</p>	<p>第九十三分科</p>	<p>第九十四分科</p>	<p>第九十五分科</p>	<p>第九十六分科</p>	<p>第九十七分科</p>	<p>第九十八分科</p>	<p>第九十九分科</p>	<p>第一百分科</p>
------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	--------------

日本標準規格B4列(十一行全)(山田納)

内 閣



陸甲三八

昭和十六年五月二十二日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十六年五月二十二日
昭和十六年五月二十日
昭和十六年五月二十日

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

送

陸軍大臣

為

文部大臣

送

逓信大臣



厚生大臣

送

内務大臣

送

海軍大臣



農林大臣

送

鐵道大臣



小倉國務大臣



大藏大臣



司法大臣



商工大臣

拓務大臣



鈴木國務大臣



別紙陸軍大臣請議陸軍士官學校

令中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ヲ通

法
制
局

法制局陸第27號
昭和十六年五月十五日

陸普第三四五六號

陸軍士官學校令中改正ノ件

昭和拾六年五月拾貳日

陸軍大臣 東條英

內閣總理大臣 公爵近衛文麿殿



陸軍士官學校令中別紙勅令案ノ通改正相成度理由書ヲ相添ヘ閣議ヲ
請フ

陸甲 三八

陸軍

IMT 660 135

本件、五月中ニ
公布相成度

法制局

內閣官房總務課

市申

陸軍

朕陸軍士官學校令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年五月二十七日

内閣總理大臣

陸軍大臣

勅令第六百七號

陸軍士官學校令中左ノ通改正ス

第一條中「將校」ヲ「現役將校」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ外陸軍士官學校ニ於テハ外國陸軍將校候補者（以下留學生ト稱ス）ノ教育ヲ行フ

第二條中「一年八月」ヲ「二年」ニ改ム

第二條ノ二 學生ハ、左ノ二種トシ通常毎年一回入校セシメ其ノ修學期間ハ概ネ一年トス

丁種學生 特別志願將校（昭和八年勅令第十二號ニ依リ充用セラレ居ル者

ル者ヲ以テ之ニ充テ兵科現役將校ニ必要ナル教育ヲ受ケシム

己種學生 兵科少尉候補者ヲ以テ之ニ充テ兵科將校タルニ必要ナル教育ヲ受ケシム

條ノ二及第三十二條中「及學生」ヲ「學生及留學生」ニ改ム

生ト稱スノ教育ヲ行フ

第二條中「一年八月」ヲ「二年」ニ改ム

第二條ノ二 學生ハ、左ノ二種トシ通常毎年一回入校セシメ

其ノ修學期間ハ概ネ一年トス

丁種學生 特別志願將校(昭和八年勅令第十二號ニ依リ充用セラレ居ル者)

ル者ヲ以テ之ニ充テ兵科現役將校ニ必要ナル教育ヲ受

ケシム

己種學生 兵科少尉候補者ヲ以テ之ニ充テ兵科將校タルニ必

要ナル教育ヲ受ケシム

條ノ二及第三十二條中「及學生」ヲ「學生及留學生」ニ改ム

第五條中「及學生」ヲ削ル

第六條ノ二中「訓育及術科教育」ヲ「教育」ニ改ム

第六條ノ三 留學生ノ教育ヲ行フ爲陸軍士官學校ニ留學生隊ヲ置

ク

第七條中「及學生」ヲ削ル

任セシムル爲陸軍士官學校ニ機甲部ヲ置ク

第七條中「及學生」ヲ削ル

第七條ノ二中「學生」ヲ「學生及留學生」ニ改ム

第八條中「教官」ヲ「教授部教官」ニ改メ「學生隊中隊長」ノ次

ニ「學生隊教官」ヲ、「學生隊附」ノ次ニ
留學生隊長
留學生隊中隊長
留學生隊副隊長
留學生隊馬術教官
留學生隊馬術教官

ヲ加フ

第十四條第一項中「教官」ヲ「教授部教官」ニ

ニ、「四人」ヲ「六人」ニ、「又ハ航空」ヲ「機甲、航空又ハ

語學」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

教授部長及各科長ハ教育上専門事項ニ關シ學生隊教官及留學生

隊教官ヲ區處スルコトヲ得

第十四條ノ二 教授部附ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ業務ヲ掌ル

第十九條ノ二中「訓育及術科教育」ヲ「教育」ニ改ム

第十九條ノ五ヲ第十九條ノ七トス

第十九條ノ五 學生隊教官ハ學生隊長ノ命ヲ承ケ學科教育及之ニ

關聯スル訓育ヲ分擔ス

第十九條ノ六 學生隊馬術教官ハ學生隊長ノ命ヲ承ケ馬術教育及

之ニ關聯スル訓育ヲ掌ル

留學生ニ對シテ同條ニ在リノ事項ヲ加フ

教授部長及各科長ハ教育上専門事項ニ關シ學生隊教官及留學生隊教官ヲ區處スルコトヲ得

第十四條ノ二 教授部附ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ業務ヲ掌ル

第十九條ノ二中「訓育及術科教育」ヲ「教育」ニ改ム

第十九條ノ五ヲ第十九條ノ七トス

第十九條ノ五 學生隊教官ハ學生隊長ノ命ヲ承ケ學科教育及之ニ關聯スル訓育ヲ分擔ス

第十九條ノ六 學生隊馬術教官ハ學生隊長ノ命ヲ承ケ馬術教育及之ニ關聯スル訓育ヲ掌ル

第十九條ノ八 留學生隊長ハ留學生隊ヲ統べ校長ノ命ヲ承ケ、
教育ヲ掌理ス

第十九條ノ九 留學生隊副官ハ留學生隊長ノ命ヲ承ケ留學生隊ノ庶務ヲ掌ル

第十九條ノ十 留學生隊中隊長ハ留學生隊長ノ命ヲ承ケ訓育及術科教育ヲ擔任ス

第十九條ノ十一 留學生隊教官ハ留學生隊長ノ命ヲ承ケ學科教育及之ニ關聯スル訓育ヲ分擔ス

第十九條ノ十二 留學生隊馬術教官ハ留學生隊長ノ命ヲ承ケ馬術

教育及之ニ關聯スル訓育ヲ掌ル

第十九條ノ十三 留學生隊附ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ業務ヲ掌

ル

第十九條ノ十四 機甲部長ハ校長ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第十九條ノ十五 機甲教官ハ機甲部長ノ命ヲ承ケ部務ヲ

分擔ス

第二十條ニ左ノ一項ヲ加フ

馬術部長ハ教育上専門事項ニ關シ學生隊馬術教官及留學生隊馬

術教官ヲ區處スルコトヲ得

第二十三條第一項ノ下ニ「及留學生」ヲ加ヘ同條第二

項中「及學生」ヲ「及留學生」ニ改メ、學生

第二十六條第五號中「將校」ヲ「現役將校」ニ改メ、學生

及留學生」ヲ「及留學生」ニ改メ、學生

及留學生」ヲ「及留學生」ニ改メ、學生

教育及之ニ關聯スル訓育ヲ掌ル

第十九條ノ十三 留學生隊附ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ業務ヲ掌ル

第十九條ノ十四 機甲部長ハ校長ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌ル

第十九條ノ十五 機甲教官ハ機甲部長ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌ル

分擔ス

第二十條ニ左ノ一項ヲ加フ

馬術部長ハ教育上専門事項ニ關シ學生隊馬術教官及留學生隊馬術教官ヲ區處スルコトヲ得

第二十三條第一項中「生徒」ノ下ニ「及留學生」ヲ加ヘ同條第二項中「及學生」ヲ「及學生及留學生」ニ改ム

第二十六條第五號中「將校」ヲ「現役將校」ニ改ム

及留學生」ニ改ム

二條ノ改正規定ハ公布ノ日ヨリ、第二條ノ二ノ改正規定ハ昭和十六年十二月一日ヨリ、其ノ他ノ規定ハ昭和十六年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

改正規定施行ノ際現ニ陸軍士官學校生徒之學期間ハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十條ノ二 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外留學生ノ取扱ニ關スル事項ハ教育總監陸軍大臣ト協議シテ之ヲ定ム

留學生隊ニ關スル部分竝ニ第三條、第四條、第六條ノ三、第七條ノ二、第十九條ノ八乃至第十九條ノ十三、第三十條ノ二及第三十

理由

生徒ノ在學期間ヲ二年ニ延長シ新ニ學校ニ留學生隊及機甲部等ヲ設
クル等ノ爲改正ノ要アルニ依ル

陸軍

參照

●陸軍士官學校令

昭和十二年四月八日
勅令第百十號

陸軍士官學校令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(總理、陸軍大臣副署)

陸軍士官學校令

第一條 陸軍士官學校ハ兵科(憲兵及航空關係ノ者ヲ除ク以下之ニ同ジ)將校ト爲スベキ生徒及學生ヲ教育スル所トス

第二條 生徒ハ魯兵科士官候補生ニシテ所定ノ除附勤務ヲ修得シタル者ヲ以テ之ニ充テ魯兵科將校ニ必要ナル教育ヲ受ケシム通常毎年一回入校セシメ其ノ修學期間ハ概ネ一年八月トス

第二條ノ二 學生ハ兵科少尉候補者ヲ以テ之ニ充テ兵科將校ニ必要ナル教育ヲ受ケシム通常毎年一回入校セシメ其ノ修學期間ハ概ネ一年トス

第三條 生徒ノ教育ヲ分チテ調育並ニ學科及術科教育トシ其ノ教育綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第四條 生徒ノ教育ノ實施ハ教則ニ依ル其ノ教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ教育總監ノ認可ヲ受ケ校長之ヲ定ム

第五條 生徒ノ學科教育及之ニ關聯スル調育ニ任セシムル爲陸軍士官學校ニ教授部ヲ置ク

第六條 生徒ノ調育及術科教育ヲ行フ爲陸軍士官學校ニ生徒隊ヲ置ク

第六條ノ二 學生ノ調育及術科教育ヲ行フ爲陸軍士官學校ニ學生隊ヲ置ク

第七條 生徒ノ學術教育及之ニ關聯スル調育ニ任セシムル爲陸軍士官學校ニ學術部ヲ置ク

三毛

第七條ノ二 兵器ノ修理及整備ノ實習ニ供スル爲陸軍士官學校ニ材料廠ヲ置ク

第八條 陸軍士官學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

幹事

副官

學校附

教授部長

教官

生徒隊長

生徒隊副官

生徒隊大隊長

生徒隊中隊長

生徒隊附

學生隊長

學生隊副官

學生隊中隊長

學生隊附

馬術部長

馬術教官

材料廠長

材料廠附

准士官、下士官及判任文官

第九條 校長ハ教育總監ニ兼シ校務ヲ總理ス

第十條 幹事ハ校長ヲ輔佐シ校務ヲ整理シ教育ノ統一ヲ圖ル

第十一條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十二條 學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十三條 教授部長ハ校長ノ命ヲ承ケ學科教育及之ニ關聯スル調育ヲ總理ス

第十四條 教官ハ教授部長ノ命ヲ承ケ學科教育及之ニ關聯スル調育ヲ分擔ス

日本標準規格B4列(十一行全)(山田納)

校長ハ教官ノ内四人ヲ科長ト爲シ教授部長ノ命ヲ承ケ各職術、兵器、築
城又ハ航空會ノ學科教育ヲ監理セシム

第十五條 生徒隊長ハ生徒隊ヲ統べ校長ノ命ヲ承ケ調育及術科教育ヲ掌理
ス

第十六條 生徒隊副官ハ生徒隊長ノ命ヲ承ケ生徒隊ノ庶務ヲ掌ル

第十七條 生徒隊大隊長ハ大隊ヲ統べ生徒隊長ノ命ヲ承ケ調育及術科教育
ヲ掌ル

第十八條 生徒隊中隊長ハ大隊長ノ命ヲ承ケ調育及術科教育ヲ擔任ス

第十九條 生徒隊附ハ上官ノ命ヲ承ケ各擔任ノ業務ヲ掌ル

第十九條ノ二 學生隊長ハ學生隊ヲ統べ校
長ノ命ヲ承ケ調育及術科教育ヲ掌理ス

第十九條ノ三 學生隊副官ハ學生隊長ノ命
ヲ承ケ學生隊ノ庶務ヲ掌ル

第十九條ノ四 學生隊中隊長ハ學生隊長ノ
命ヲ承ケ調育及術科教育ヲ擔任ス

第十九條ノ五 學生隊附ハ上官ノ命ヲ承ケ
各擔任ノ業務ヲ掌ル

第二十條 馬術部長ハ校長ノ命ヲ承ケ馬術教育及之ニ關聯スル調育並ニ校
庭ニ關スル一切ノ業務ヲ掌理ス

第二十一條 馬術教官ハ馬術部長ノ命ヲ承ケ馬術部ノ業務ヲ分擔ス

第二十一條ノ二 材料廠長ハ校長ノ命ヲ承ケ廠務ヲ掌ル

第二十一條ノ三 材料廠附ハ材料廠長ノ命ヲ承ケ廠務ヲ分擔ス

第二十二條 准士官及下士官ハ上官ノ命ヲ承ケ術科教育ヲ補助シ又ハ技術
若ハ事務ニ從事ス

列任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ技術又ハ事務ニ從事ス

第二十三條 生徒ハ校内ニ、學生ハ校外ニ
居住セシム但シ教育上必要アルトキハ學

内
閣

生ヲ校内ニ起居セシムルコトヲ得

生徒及學生ノ修學ニ要スル兵器、被服、圖書、器具、消耗品等ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

第二十四條 生徒ノ願ハ其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

第二十五條 生徒ノ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ズ

第二十六條 生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ退校セシム

一 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

二 品行不正ニシテ改校ノ目途ナキ者

三 學術ノ成績不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者

四 傷疾疾病ニ因リ修學ニ堪ヘザル者

五 前各號ノ外將校タルニ適セズト認ムル者

第二十七條 生徒中傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修學期間内ニ所定ノ學術ヲ修メ得ザル者ニシテ尙望アリト認ムルモノハ之ヲ所要ノ期間間滯學セシメ又ハ次期ノ生徒ト爲スコトヲ得

前條第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ退校セシメラレタル生徒ニシテ尙望アリト認ムル者ハ退校後一回ヲ限り更ニ之ヲ入校セシムルコトヲ得

第二十八條 前二條ノ規定ニ該當スル者アルトキハ校長ノ上申ニ依リ教育總監之ヲ處理ス

第二十九條 校長ハ生徒卒業ノ期ニ至リタルトキハ其ノ修業成績書ヲ調製シ之ヲ教育總監ニ提出シ其ノ認可ヲ受ケ卒業者ニ卒業證書ヲ付與シ之ヲ歸除セシム

前項ノ場合ニ於テ教育總監ハ生徒ノ修業成績書ヲ陸軍大臣ニ移シ校長ハ各生徒ノ修業成績書ヲ本人ノ所管長官ヲ經テ所屬部隊長ニ送付スルモノトス

滯學セシメラレタル生徒修學ヲ終リタルトキハ前二項ノ規定ニ準ジ之ヲ取扱フモノトス

日本標準規格B4列(十一行全)(山田納)

第三十條 校長ハ生徒ニ毎年冬季二週間以

内夏季四週間以内ノ休暇ヲ、學生ニ二十

日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第三十一條 校長ハ校務上便宜ノ時期ニ於テ武官タル職員ニ隊附勤務ヲ爲
サシムルコトヲ得

第三十二條 校長ハ生徒ノ教育上必要アルトキハ陸軍航空總監、軍司令

官、師團長又ハ飛行集團長ニ稟議シ其ノ學校又ハ軍隊ヲ使用スルコトヲ
得

附則

本令ハ昭和十二年八月二日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ陸軍士官學校本科生徒タル者ハ本令ニ依ル陸軍士官學校
生徒ト爲リタルモノトシ其ノ修學期間ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

参照

●昭和八年勅令第十二號（補充上ノ必要ニ依リ陸軍ノ軍隊、

官衙又ハ學校ニ於ケル佐、尉官ニ豫備役又ハ後備役ノ佐、

尉官充用ノ件）
昭和八年二月十七日
勅令第十二號
（總理、陸軍大臣副署）

陸軍ノ軍隊、官衙又ハ學校ニ於ケル佐、尉官ハ補充上ノ必要ニ依リ當分ノ内陸軍ノ豫備役又ハ後備役ノ佐、尉官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得其ノ身分取扱ハ陸軍大臣ニ於テ別段ノ定ヲ爲ス場合ヲ除クノ外召集中ノ者ニ同ジ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内閣

●昭和十四年勅令第七百三十一號

(幹部候補生等ヨリ將校ト爲リ

タル者ノ役種變更ニ關スル件)

昭和十四年十月二十八日
勅令第七百三十一號

陸軍部候補生等ヨリ將校ト爲リタル者ノ役種變更ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、陸軍大臣副署)

第一條 當分ノ内幹部候補生、操縱候補生、一年志願兵又ハ二年現役兵ヨリ豫備役又ハ後備役ノ將校ト爲リタル者ニシテ左ノ各號ニ該當シ現役ニ服スルコトヲ志願スルモノハ之ヲ現役ト爲スコトヲ得

- 一 昭和八年勅令第十二號ニ依リ充用セラレ居ル者
- 二 陸軍憲兵學校、陸軍醫科士官學校、陸軍航空士官學校、陸軍工科學校、陸軍經理學校、陸軍軍醫學校、陸軍獸醫學校又ハ陸軍大臣ノ定ムル部隊ニ於テ概ネ一年間必要ナル學術ヲ習得シ現役將校タルニ適スル者

第二條 前條第二號ニ規定スル學術ノ習得ヲ爲サシムベキ者ハ聯隊長(聯隊長ト同等以上ノ權アル獨立隊長ヲ含ミ官衙學校ニ在リテハ其ノ長トス)ニ於テ選拔シタル者ノ中ヨリ銓衡ノ上陸軍大臣之ヲ定メ同號ニ規定スル部隊ニ派遣セシム

前項ニ規定スル銓衡ノ方法ハ陸軍大臣之ヲ定ム
第三條 第一條第二號ニ規定スル期間ハ戰時又ハ事變ノ際其ノ他必要アル場合ニ於テハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ短縮スルコトヲ得

第四條 陸軍武官服役令第八條第二項、第九條第二項及附則第三項ノ規定ハ第一條ノ規定ニ依リ現役ト爲リタル者ノ爾後ノ服役ニ之ヲ適用セズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前陸軍憲兵學校甲種學生ノ課程ヲ卒業シタル者ハ之ヲ第一條第二號ニ規定スル學術ヲ習得シタル者ト看做ス本令施行ノ際現ニ同校ノ甲種學生タル者當該課程ヲ卒業シタルトキ亦同シ



陸田三九

昭和十六年 五月二十二日

内閣書記官長

内閣書記官



昭和十六年五月二十三日認可
昭和十六年五月二十八日公布

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣



陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣



厚生大臣



内務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



小倉國務大臣



大藏大臣



司法大臣



商工大臣

拓務大臣



鈴木國務大臣



別紙陸軍大臣請議陸軍自動車學校

令中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

法
制
局

法制局

法制局院第...號
昭和十六年五月十三日

陸普第三四五八號

陸軍自動車學校令中改正ノ件

昭和拾六年五月拾貳日 陸軍大臣 東條英

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

陸軍自動車學校令中別紙勅令案ノ通改正相成度理由書ヲ相添へ閣議
ヲ請フ



陸軍

作

陸甲 三九

朕陸軍自動車學校令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第三條ノ三中「教育總監」ヲ「幹部候補生ノ教育ニ係ルモノニ在リテハ陸軍機甲本部長ヲ經テ教育總監ノ、下士官候補者ノ教育ニ係ルモノニ在リテハ陸軍機甲本部長」ニ改ム

第九條中「教育總監」ヲ「陸軍機甲本部長」ニ改メ但書ヲ削ル

第二十一條中「教育總監ニ報告シ又ハ通牒」ヲ「陸軍大臣及陸

軍機甲本部長ニ報告又ハ通報」ニ改ム

第二十四條及第二十八條第二項中「教育總監」ヲ「陸軍機甲本部長」

ニ改ム

第二十九條第一項中「教育總監」ヲ「陸軍機甲本部長」ニ、同條

第二項中「教育總監」ヲ「陸軍機甲本部長」ニ、「陸軍大臣ニ移

シ」ヲ「教育總監ヲ經テ陸軍大臣ニ提出シ」ニ改ム

陸軍

朕陸軍自動車學校令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年 五月二十七日

内閣總理大臣

陸軍大臣

勅令第六百八號

陸軍自動車學校令中左ノ通改正ス

第一條第二項及第二條ノ二中「輜重兵科」ヲ「輜重關係」ニ改ム

第二條中「各兵科（憲兵科ヲ除ク）」ヲ「兵科（憲兵ヲ除ク）」

ニ、「輜重兵科」ヲ「輜重關係」ニ、「其ノ他ノ兵科」ヲ「其ノ

他」ニ、「教育總監」ヲ「陸軍機甲本部長」ニ改ム

第三條中「各兵科」ヲ「兵科（憲兵ヲ除ク）」ニ改ム

シ「教育總監」ヲ「陸軍大臣ニ提出シ」ニ改ム

第三十條第一項中「教育總監」ヲ「陸軍機甲本部長ヲ經テ教育總監」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

陸軍機甲本部ノ設置ニ件ヒ從來教育總監直轄タリシモノヲ陸軍機
甲本部長ノ隷下ニ隸屬替ヘスル爲改正ノ要アルニ依ル

陸軍自動車學校令

陸軍自動車學校令

大正十四年四月二十八日
勅令第五百五十九號

改正 昭和八年第六九號 勅令第五百五十九號
陸軍自動車學校令ヲ裁可シ技ニ之ヲ公布セシム (總理、陸軍大臣副署)

第一條 陸軍自動車學校ハ學生及兵ニ自動車ニ關スル學術ヲ修得セシメ且自動車ニ關スル學術ノ調査研究ヲ行ヒ以テ自動車ニ關スル學術ノ進歩ヲ圖リ且自動車及之ニ關スル器材ノ研究及試験ヲ行フ所トス

陸軍自動車學校ニ於テハ前項ノ外幹部候補生ニ關重兵科豫備役將校ニ必要ナル教育ヲ、下士官候補者ニ關重兵科現役下士官ニ必要ナル教育ヲ行フ

第二條 學生ヲ分チテ左ノ二種トシ通常毎年二回入校セシム
甲種學生 各兵科(憲兵科ヲ除ク)尉官ヲ以テ之ニ充テ其ノ修學期間ハ
輻重兵科ノ者ニ在リテハ概ネ八月、其ノ他ノ兵科ノ者ニ在リテハ概ネ五月トス但シ修學ヲ終リタル學生ノ中ヨリ若干名ヲ選拔シ教育總監ノ認可ヲ受ケ更ニ一年以内在學セシメ尙須要ナル學術ヲ修習セシムルコトヲ得

乙種學生 各兵科(憲兵科ヲ除ク)下士官ヲ以テ之ニ充テ其ノ修學期間ハ概ネ五月トス

第二條ノ二 幹部候補生ハ各隊ヨリ分遣スル輻重兵科甲種幹部候補生ヲ以テ之ニ充テ通常毎年一回入校セシメ其ノ修學期間ハ概ネ十一月トス

第二條ノ三 下士官候補者ハ各隊ヨリ分遣スル者ヲ以テ之ニ充テ通常毎年一回入校セシメ其ノ修學期間ハ概ネ一年トス

第三條 前條ノ外臨時ニ各兵科將校以下ニ必要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得

第三條ノ二 幹部候補生及下士官候補者ノ教育綱領ハ教育總監之ヲ定ム

第三條ノ三 幹部候補生及下士官候補者ノ教育ノ實施ハ教則ニ依ル其ノ教則ハ前條ノ教育綱領ニ基キ教育總監ノ認可ヲ受ケ校長之ヲ定ム

第四條 學生ノ教育ニ任セシムル爲本校ニ教育部ヲ置ク

第五條ノ二 幹部候補生ノ教育ヲ行フ爲本校ニ幹部候補生隊ヲ置ク

第五條ノ三 下士官候補者ノ教育ヲ行フ爲本校ニ下士官候補者隊ヲ置ク

第六條 學生ノ教育及自動車ニ關スル研究試験ニ充テ且兵ニ自動車ニ關スル學術ヲ教育スル爲本校ニ練習隊ヲ置キ各隊ヨリ所要ノ兵ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第七條 兵器ノ整備及研究並ニ學生、幹部候補生及下士官候補者ノ實習ニ供スル爲本校ニ材料廠ヲ置ク

第八條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長
- 幹事
- 副官
- 學校附
- 教官
- 研究部部員
- 研究部主事

幹部候補生隊長
幹部候補生中隊長
幹部候補生附隊長
下士官候補者隊長
下士官候補者附隊長

- 練習隊長
- 練習隊附
- 材料廠長
- 材料廠附
- 准士官、下士官及判任文官

第九條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理ス但シ自動車及之ニ關スル器材ノ研究及試験ニ關シテハ陸軍大臣ノ區處ヲ受ケルモノトス

第十條 幹事ハ校長ヲ輔佐シ校務ヲ整理シ教育及研究ノ統一ヲ圖ル

第十一條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第十二條 學校附ハ校長ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十三條 教官ハ校長ノ命ヲ承ケ學術ノ授業ヲ分擔ス

第十四條 研究部部員ハ校長ノ命ヲ承ケ調査研究及試験ヲ分擔ス

第十五條 研究部主事ハ校長ノ命ヲ承ケ調査研究及試験ニ要スル資料ノ蒐集整理ニ任シ且調査研究及試験ヲ分擔ス

第十五條ノ二 幹部候補生隊長ハ幹部候補生隊ヲ統べ校長ノ命ヲ承ケ幹部候補生ノ教育ヲ掌理ス

第十五條ノ三 幹部候補生隊中隊長ハ幹部候補生隊長ノ命ヲ承ケ幹部候補生ノ教育ヲ擔任ス

第十五條ノ四 幹部候補生隊附ハ上官ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十五條ノ五 下士官候補者隊長ハ下士官候補者隊ヲ統べ校長ノ命ヲ承ケ下士官候補者ノ教育ヲ掌理ス

第十五條ノ六 下士官候補者隊附ハ上官ノ命ヲ承ケ各其ノ擔任ノ業務ヲ掌ル

第十六條 練習隊職員ノ服務ニ付テハ軍隊内務ノ定則ヲ準用ス

第十七條 材料廠長ハ校長ノ命ヲ承ケ廠務ヲ掌ル

第十八條 材料廠附ハ材料廠長ノ命ヲ承ケ廠務ヲ分擔ス

第十九條 准士官、下士官及判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ教育ヲ補助シ又ハ技術若ハ事務ニ従事ス

第二十條 學生及第三條ノ規定ニ依リ修學セシムル者ノ人員、入校期日及修學期間ハ教育總監ノ通牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第二十一條 前條ノ告達アリタルトキハ所管長官ハ修學ニ適當ナル者ヲ選定シ入校前ニ其ノ所屬部隊及官等氏名ヲ教育總監ニ報告シ又ハ通牒スヘシ

日本標準規格列(十一行全)(山田納)

第二十二條 營外居住者タル學生ハ校外ニ、營内居住者タル學生、幹部候補生及下士官候補者ハ校内ニ居住セシメ其ノ修學ニ要スル兵器、被服、圖書、器具、消耗品等ハ之ヲ貸付シ又ハ支給スルコトヲ得

（幹部候補生及下士官候補者）

第二十三條 學生ノ願屆其ノ他業務ニ關スル諸件ハ校長ノ管理ニ屬ス

第二十四條 學生中傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修業ノ見込ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ受ケ退校セシム

第二十五條 幹部候補生及下士官候補者ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ズ

第二十六條 幹部候補生及下士官候補者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ退校セシム

- 一 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者
 - 二 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者
 - 三 學術ノ成績不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者
 - 四 傷疾疾病ニ因リ修學ニ堪ヘザル者
 - 五 前各號ノ外幹部候補生ニ在リテハ豫備役將校、下士官候補者ニ在リテハ下士官タルニ適セズト認ムル者
- 第二十七條 下士官候補者中傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修學期間内ニ所定ノ學術

ヲ修メ得ザル者ニシテ尙望アリト認ムルモノハ之ヲ所要ノ期間滯學セシムルコトヲ得

第二十八條 前二條ノ規定ニ該當スル者アルトキハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ受ケ之ヲ處理ス

退校セシメラレタル幹部候補生及下士官候補者ハ之ヲ歸隊セシム

第二十九條 校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ其ノ修業成績書ヲ調製シ之ヲ教育總監ニ提出シ其ノ認可ヲ受ケ乙種學生ニハ修業證書ヲ付與シ學生ヲ歸隊セシム

前項ノ場合ニ於テ教育總監ハ甲種學生ノ修業成績書ヲ陸軍大臣ニ移シ校長ハ各學生ノ修業成績書ヲ本人ノ所管長官ヲ經テ所屬部隊長ニ送付スルモノトス

第三十條 校長ハ幹部候補生又ハ下士官候補者卒業ノ期ニ至リタルトキハ其ノ修業成績書ヲ調製シ之ヲ教育總監ニ提出シ其ノ認可ヲ受ケ卒業者ニ卒業證書ヲ付與シ之ヲ歸隊セシム

前項ノ場合ニ於テ教育總監ハ幹部候補生ノ修業成績書ヲ陸軍大臣ニ移シ校長ハ各幹部候補生又ハ下士官候補者ノ修業成績

書ヲ本人ノ所管長官ヲ經テ所屬部隊長ニ
送付スルモノトス

滯學セシメラレタル下士官候補者修學ヲ
終リタルトキハ前二項ノ規定ニ準ジ之ヲ
取扱フモノトス

第三十一條 校長ハ校務上便宜ノ時期ニ於
テ武官タル職員ニ隊附勤務ヲ爲サシムル
コトヲ得

第三十二條 校長ハ研究又ハ教育上必要アル
ルトキハ陸軍航空總監、軍司令官、師團長
又ハ飛行集團長ニ稟議シ其ノ軍隊又ハ學
校ヲ使用スルコトヲ得

附則

本令ハ昭和十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

日本標準規格B4列(十一行全)(山田納)

陸甲 四二

昭和十六年五月二十六日

内閣書記官長



内閣書記官



十六年五月三日公布

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

佐

陸軍大臣

茂

文部大臣

昭

逓信大臣



厚生大臣

厚

内務大臣

海軍大臣



農林大臣

亨

鐵道大臣



小倉國務大臣



大藏大臣



司法大臣

本

商工大臣

西

拓務大臣

西

鈴木國務大臣



別紙陸軍大臣請議陸軍理事官設置道制

中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

二

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

法
制
局

陸軍省
勅令
第 〇 〇 〇 號

陸軍省

陸軍省

陸普第三五二三號

陸軍理事官設置制中改正ノ件

昭和拾六年五月拾四日

陸軍大臣 東條英機



内閣總理大臣 公府近衛文麿殿

陸軍理事官設置制中別紙勅令案ノ通改正相成度理由書ヲ相添ヘ閣議ヲ請フ

陸甲 四二

IMT 660

162

本件ハ 六月 二 日 以後
布相成度

法 制 局

内閣官房總務課
御 中

陸軍

朕陸軍理事官設置制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年六月二日

内閣總理大臣

陸軍大臣

勅令第六百五十四號

陸軍理事官設置制中左ノ通改正ス

第二條中「六人」ヲ「十人」ニ改ム

第三條中「陸軍兵器廠、陸軍製絨廠及聯隊區司令部」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ、日ヨリ之ヲ施行ス

理事官増置ノ爲ノ豫算處理ノ件

昭和十六年五月十六日

陸軍省軍務局軍事課 竹下少佐



法務局 白井參事官殿

理事官四名増加ノ爲ノ豫算ハ各目名細表中ニハ揭示セラレアラサル
 モ（防諜上内容ヲ記セサルコトトナリアリ）十六年度兵備改善費奏
 任俸給ノ目中本俸一五六、四八〇圓ノ中ニ理事官四名分九、一二〇
 圓（一名宛二、二八〇圓）ヲ含ミアルモノニ承知相成度
 尙要スレハ大藏省ニ照會相成度

ニ付

秘

陸軍

理事官増置ノ基礎タル判任文官數ノ件

昭和十六年五月二十二日

陸軍省軍務局軍事課 竹下少佐

法制局第二部 臼井參事官殿

首題ノ件左表ノ通り

部 隊 區 分	現在人員	十六年度軍備改裝 ニヨリ増加后ノ人員	理事官配當
技術本部	七	四五	新 二
航空本部	二五	二五	新 一
兵器廠	二六七	二六七	五
製絨廠	一六	一六	一
聯隊區司令部	三六一	五〇六	新 一

参照

●陸軍理事官設置制

昭和十一年六月一日
勅令第八十四號

改正 昭和十二年第三六五號、一五年第二一〇號、第二六一號
陸軍理事官設置制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總理、陸軍大臣副署)

陸軍理事官設置制

- 第一條 陸軍ニ陸軍理事官ヲ置ク
- 第二條 陸軍理事官ハ專任六人奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
- 第三條 陸軍理事官ハ陸軍兵器廠及陸軍製絨廠ニ之ヲ屬セシム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

濟

陸甲 四七

昭和十六年五月二十九日

内閣書記官長

内閣書記官

昭和十六年五月二十九日
昭和十六年六月四日

内閣總理大臣



法制局長官



外務大臣

佐

陸軍大臣

松

文部大臣

西

逓信大臣



厚生大臣

内務大臣

近

海軍大臣



農林大臣

高

鐵道大臣



小倉國務大臣



大藏大臣



司法大臣

本

商工大臣

西

拓務大臣

西

鈴木國務大臣



別紙陸軍大臣

請議

陸軍

通信學

校令中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

法
律
局

昭和六年五月廿七日

陸普第三九一一號

陸軍通信學校令中改正ノ件

昭和六年五月廿七日

陸軍大臣 東條英機

内閣總理大臣 公爵近衛文麿殿



陸軍通信學校令中別紙勅令案ノ通改正相成度理由書ヲ相添ヘ閣議ヲ請フ

陸甲 四七



陸

軍

作後

陸軍

朕陸軍通信學校令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年六月三日

内閣總理大臣

陸軍大臣

勅令第六百五十八號

陸軍通信學校令中左ノ通改正ス

第二條中「各兵科一應兵科ヲ除ク」

「兵科一應兵科ヲ除ク」

「兵科一應兵科ヲ除ク」

「兵科一應兵科ヲ除ク」

第十六條第一項、第三十七條及第四十一條第一項中「教育

總監」ヲ「通信兵監」ニ改ム

第三十四條中「教育總監ニ報告」ヲ「通信兵監ニ通報」

報告

ニ改ム

第四十二條第一項中「教育總監」ヲ「通信兵監」ニ、同條第二項中「教育總監、」ヲ「通信兵監、、、、」ニ、「陸軍大臣ニ移シ」ヲ「^多教^多」ハ臣ニ提出シ」ニ改ム

第四十三條第一項中「、教育總監」ヲ「、通信兵監ヲ經テ教育總監」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭令

●陸軍通信學校令

昭和十三年七月三十日
勅令第五百三十三號

陸軍通信學校令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、陸軍)
(大臣副署)

第二條 學生ヲ分チテ左ノ六種トシ通常毎年一回入校セシム

甲種學生 各兵科(憲兵科ヲ除ク)ノ中、少佐又ハ大尉ヲ以テ之ニ充テ主トシテ通信部隊ニ必要ナル戰術、教練及陣中勤務ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ三月トス

乙種學生 各兵科(憲兵科ヲ除ク)大、中尉中(陸軍通信學校)南種學生又ハ他ノ陸軍諸學校ニ在リテ之ニ充テ修業ヲ終ル者ヲ以テ之ニ充テ通信部隊ノ勤務ニ必要ナル學術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ八月トス但シ教育總監ハ修學ヲ終リタル學生ノ中ヨリ校長ノ選抜シタル若干名ノ者ヲ長期學生ト爲シ更ニ一年以内在學セシメ須要ナル學術ヲ修習セシムルコトヲ得

丙種學生 各兵科(憲兵科ヲ除ク)尉官ヲ以テ之ニ充テ通信技術ニ關スル基礎ノ學術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ八月トス

丁種學生 各兵科(憲兵科ヲ除ク)下士官ヲ以テ之ニ充テ通信部隊ノ下士官ニ必要ナル學術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ電工下士官ニ在リテハ概ネ三月、其ノ他ノ者ニ在リテハ概ネ八月トス

特種學生 各兵科尉官ヲ以テ之ニ充テ暗號書ノ作製及取扱並ニ暗號勤務ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ概ネ五月トス
補學生 各兵科(憲兵科ヲ除ク)ノ尉官及下士官ヲ以テ之ニ充テ補通信ニ關スル學術ヲ修習セシム其ノ修學期間ハ尉官ニ在リテハ概ネ二

三月トス但シ教育總監ハ修學ヲ終リタル學生ノ中ヨリ校長ノ選抜シタル若干名ノ者ヲ長期學生ト爲シ更ニ二月以内在學セシメ暗號ニ關スル須要ナル學術ヲ修習セシムルコトヲ得

月、下士官ニ在リテハ概ネ四月トス但シ教育總監ハ修學ヲ終リタル
學生ノ中ヨリ校長ノ選拔シタル若干名ノ者ヲ長期學生ト爲シ更ニ六
月以内在學セシメ軍用場ノ育成及訓練ニ必要ナル學術ヲ修習セシム
ルコトヲ得

第二條ノ二 幹部候補生ハ各隊ヨリ分遣ス
ル各兵科甲種幹部候補生ヲ以テ之ニ充テ
豫備役將校ニ必要ナル通信ニ關スル學術
ヲ修習セシム通常毎年一回入校セシメ其
ノ修學期間ハ概ネ十一月トス

第五條 陸軍大臣ハ教育總監ノ通牒ニ依リ臨時ニ各兵科將校以下ヲ召集シ
必要ノ修學ヲ爲サシムルコトヲ得

幹部候補生
第八條 下士官候補者及生徒ノ教育ノ實施ハ教則ニ依ル其ノ教則ハ前條ノ
教育綱領ニ基キ教育總監ノ認可ヲ受ケ校長之ヲ定ム

第十六條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理ス
校長ハ場ノ育成、訓練及補充ニ關シテハ陸軍大臣ノ區處ヲ承ク

第三十三條 學生ノ人員及入校期日ハ教育總監ノ通牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ
告達ス

第三十四條 前條ノ告達アリタルトキハ所管長官ハ修學ニ適當ナル者ヲ選
定シ入校期日前ニ其ノ所屬部隊、官等級及氏名ヲ陸軍大臣及教育總監ニ
報告スベシ

日本標準規格B4例(十一行全)(山田納)

第三十七條 學生中傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ因リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ受ケ之ヲ退校セシム

幹部候補生

第三十九條 下士官候補者及生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ退校セシム

一 軍紀ヲ紊リ又ハ屢法則ヲ犯ス者

二 品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ者

三 學術ノ成績不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者

四 傷疾疾病ニ因リ修學ニ堪ヘザル者

五 前各號ノ外下士官タルニ連セズハ該當セズ

第四十條 下士官候補者及生徒中傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ因リ修學期間内ニ所定ノ學術ヲ修メ得ザル者ニシテ尙留アリト認ムルモノハ下士官候補者ニ在リテハ之ヲ所要ノ期間滞學セシメ、生徒ニ在リテハ之ヲ所要ノ期間滞學セシメ又ハ次期ノ生徒ト爲スコトヲ得

第四十一條 前二條ノ規定ニ該當スル者アルトキハ校長其ノ事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ受ケ之ヲ處理ス

退校セシメタル下士官候補者ハ之ヲ歸隊セシム

第四十二條 校長ハ學生ノ修學期末ニ於テ其ノ修業成績書ヲ調製シ之ヲ教育總監ニ提出シ其ノ認可ヲ受ケ下士官タル學生ニハ修業證書ヲ付與シ學生ヲ歸隊セシム

前項ノ場合ニ於テ教育總監ハ學生(下士官タル學生ヲ除ク)ノ修業成績書ヲ陸軍大臣ニ移シ校長ハ各學生ノ修業成績書ヲ本人ノ所管長官ヲ經テ所屬部隊長ニ送付スルモノトス

第四十三條 校長ハ幹部候補生、下士官候補者又ハ生徒卒業ノ期ニ至リタルトキハ其ノ修業成績書ヲ調製シ之ヲ教育總監ニ提出シ其ノ認可ヲ受ケ卒業者ニ卒業證書ヲ付與シ幹部候補生及下士官候補者ニ在リテハ之ヲ歸隊セシメ生徒ニ在リテハ著隊時日ヲ指定シ之ヲ所屬部隊ニ入隊セシム

前項ノ場合ニ於テ教育總監ハ幹部候補生ノ修業成績書ヲ陸軍大臣ニ移シ校長ハ各幹部候補生、下士官候補者又ハ生徒ノ修業成績書ヲ本人ノ所管長官ヲ經テ所屬部隊長ニ送付スルモノトス

滯學セシメラレタル下士官候補者又ハ生徒修業ヲ終リタルトキハ前二項ノ規定ニ準ジ之ヲ取扱フモノトス

日本標準規格B1判(十一行々)(山田納)

閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令 系

呈系附箋ノ通

法
制
局

法制局陸第四二號

昭和十六年五月三十日

陸普第三九五七號

陸軍航空廠令中改正ノ件

昭和十六年五月廿九日

陸軍大臣 東條英

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿



陸軍航空廠令中別紙勅令案ノ通改正相成度理由書ヲ相添ヘ閣議ヲ請

フ

陸甲 四八

陸軍

手印

陸軍

朕陸軍航空廠令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十六年 六月十三日

内閣總理大臣

陸軍大臣

勅令第六百九十四號

陸軍航空廠令中左ノ通改正ス

第一條第二項中「航空兵科幹部候補生」ヲ「航空關係ノ幹部候補生

」ニ改ム

第二條第三項中「分廠」ノ下ニ「及技能者養成所」ヲ加フ

第三條第一項中「分廠長」ノ次ニ「技能者養成所長」ヲ加フ

第五條中「課務」ヲ「部務」ニ改ム

第六條ノ三 技能者養成所長ハ上官ノ命ヲ承ケ技能者養成所ノ業務

ヲ掌理ス

主任者

陸軍省軍事課

陸軍少佐 村田謙吾

